

2013年9月12日 全5頁

## Indicators Update

# 7月機械受注

コンセンサスを下回るも良好な結果

経済調査部  
エコノミスト 久後 翔太郎

### [要約]

- 2013年7月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比▲0.0%と2ヶ月連続で減少し、市場コンセンサス（同+2.4%）を下回った。ただし、3ヶ月移動平均値で見ると、2ヶ月ぶりの増加となっており、機械受注は改善の動きが続いている。
- 需要者別に内訳を見ると、製造業は前月比+4.8%と3ヶ月連続の増加であった。「パルプ・紙・紙加工品」が前月比+993.2%、「非鉄金属」が同+202.0%となっており、素材業種の増加が製造業全体を押し上げた。ただし、これらは中型案件（10億円から100億円）の受注が複数重なったことによるものであり、やや割り引いてみる必要があるだろう。非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+0.0%と2ヶ月ぶりの増加となった。
- 外需は前月比+1.4%と2ヶ月ぶりに増加したものの、前月に大幅に減少していることを考慮するとやや物足りない結果となった。ただし、貿易統計の一般機械輸出の動向を見ると、EU向けや中国向けで底入れの兆しが見られていることなどから、今後も外需の増加が続く見込みである。
- 以上を総括すると、機械受注は、改善の動きが続いているものと判断できる。内閣府公表の7-9月期見通しでは、民需（除く船舶・電力）は前期比▲5.3%と2四半期ぶりの減少が見込まれているが、この数字は8月、9月にそれぞれ前月比▲6.7%の減少でも達成可能となる。また、8月、9月にそれぞれ前月比▲1.3%の減少で推移した場合、2四半期連続の増加となり、達成のハードルは高くないだろう。大和総研では、7-9月期の機械受注は2四半期連続の増加となる可能性が高いとみている。

図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2012年		2013年									
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
民需（船電を除く）	▲1.0	▲2.4	▲0.8	3.8	▲1.3	▲7.5	4.2	14.2	▲8.8	10.5	▲2.7	▲0.0
コンセンサス												2.4
DIR予想												3.1
製造業	▲6.2	▲3.0	▲2.7	1.8	1.0	▲10.0	4.9	13.3	▲7.3	3.8	2.4	4.8
非製造業（船電を除く）	2.3	0.8	2.7	6.4	▲7.8	▲4.5	0.3	14.3	▲6.0	25.4	▲17.5	0.0
外需	▲12.1	3.6	0.5	11.8	▲8.3	▲3.7	1.0	52.1	▲19.9	10.3	▲16.7	1.4

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府統計、Bloombergより大和総研作成

## 7月の機械受注は微減

2013年7月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比▲0.0%と2ヶ月連続で減少し、市場コンセンサス（同+2.4%）を下回った。ただし、3ヶ月移動平均値で見ると、2ヶ月ぶりの増加となっており、機械受注は改善の動きが続いている。

## 製造業は特殊要因を除いても良好な結果

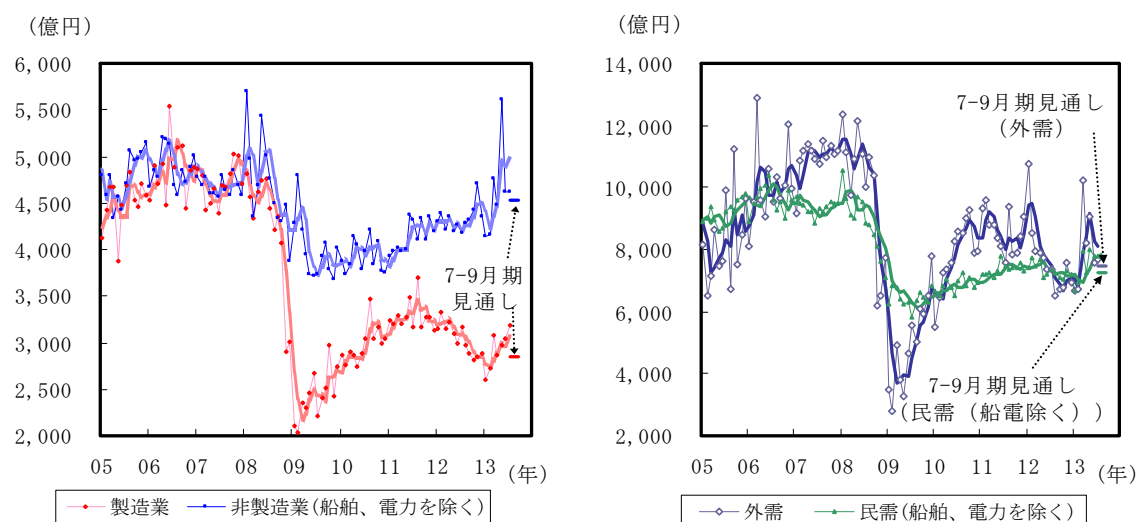
需要者別に内訳を見ると、製造業は前月比+4.8%と3ヶ月連続の増加であった。

「パルプ・紙・紙加工品」が前月比+993.2%、「非鉄金属」が同+202.0%となっており、素材業種の増加が製造業全体を押し上げた。ただし、これらは中型案件（10億円から100億円）の受注が複数重なったことによるものであり、やや割り引いてみる必要があるだろう。その他の素材業種では、「化学工業」が前月比▲15.2%と2ヶ月連続で減少したものの、「鉄鋼業」が前月比+85.4%と大幅に増加した。加工業種を見ると、「電気機械」は前月比+6.1%、「精密機械」は同+18.8%となった。これらの業種は前月の大幅な増加（電気機械：前月比+39.8%、精密機械：同+32.0%）に続いて増加しており、ポジティブな内容と言える。製造業については、特殊要因による上振れを考慮しても、良好な結果であったと判断している。

非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+0.0%と2ヶ月ぶりの増加となった。

「通信業」が前月比+20.4%、「情報サービス業」が同+27.6%と増加した。一方、「運輸業・郵便業」が前月比▲12.3%、「金融業・保険業」が同▲10.7%とそれぞれ2ヶ月連続で減少した。

図表2：需要者別機械受注



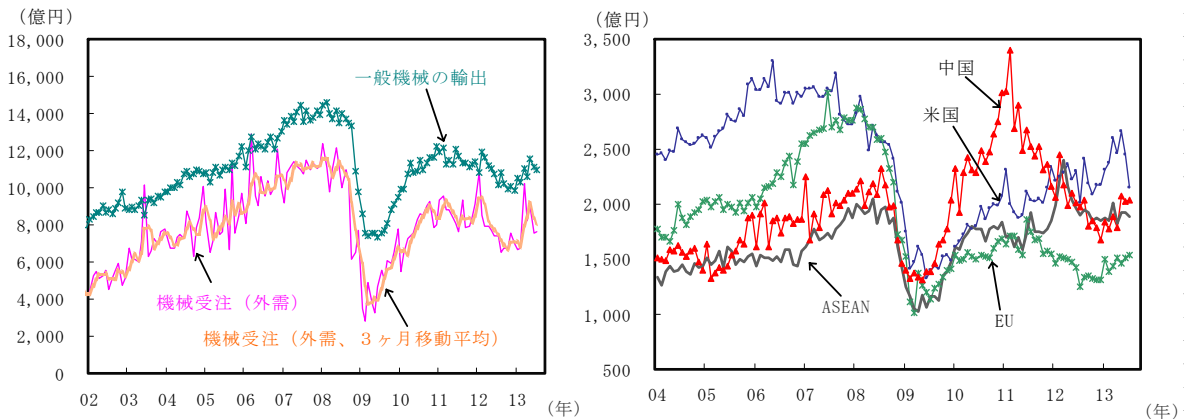
(注1) 太線は3ヶ月移動平均線。  
 (注2) 機種別受注額の季節調整は大和総研。3ヶ月移動平均値。  
 (出所) 内閣府統計より大和総研作成

## 外需は2ヶ月ぶりの増加

外需は前月比+1.4%と2ヶ月ぶりに増加したものの、前月に大幅に減少していることを考慮するとやや物足りない結果となった。ただし、貿易統計の一般機械輸出の動向を見ると、EU向けや中国

向けで底入れの兆しが見られていることなどから、今後も外需の増加が続く見込みである。

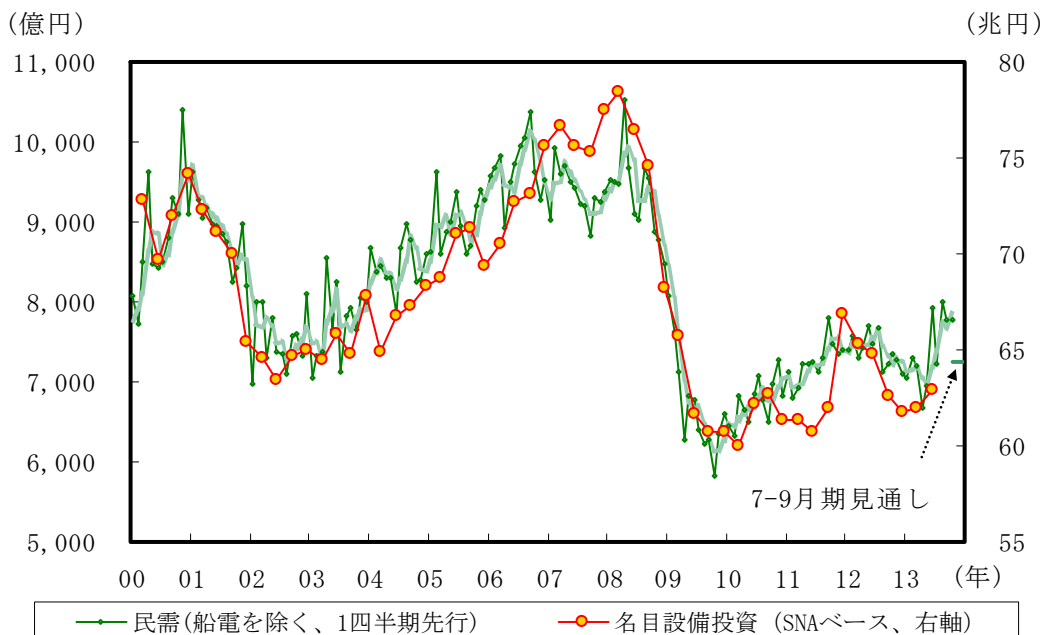
図表 3： 一般機械の輸出と機械受注の外需 図表 4： 一般機械の輸出金額（主要国・地域）



### 7-9 月期の機械受注は 2 四半期連続の増加となる可能性が高い

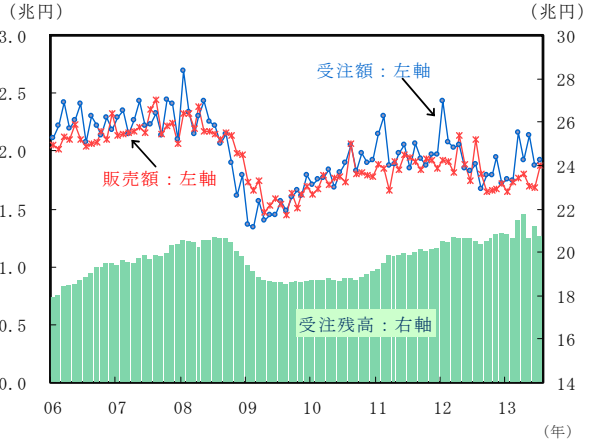
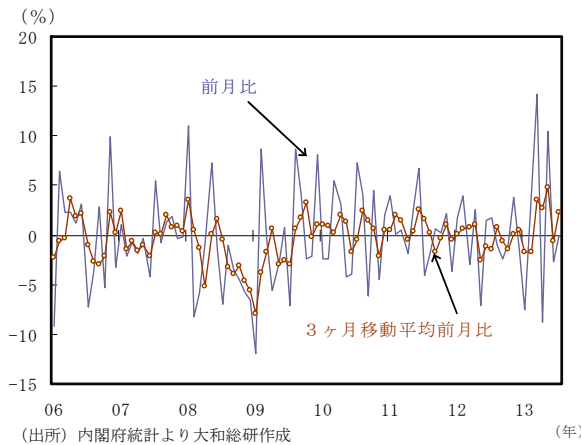
以上を総括すると、機械受注は、改善の動きが続いているものと判断できる。内閣府公表の 7-9 月期見通しでは、民需（除く船舶・電力）は前期比▲5.3%と 2 四半期ぶりの減少が見込まれているが、この数字は 8 月、9 月にそれぞれ前月比▲6.7%の減少でも達成可能となる。また、8 月、9 月にそれぞれ前月比▲1.3%の減少で推移した場合、2 四半期連続の増加となり、達成のハードルは高くない。大和総研では、7-9 月期の機械受注は 2 四半期連続の増加となる可能性が高いとみている。機械受注は GDP ベースの設備投資に対して 3 ヶ月程度先行することを考慮すると、設備投資は 7-9 月期以降も増加が続くと見ている。

図表 5： 機械受注の民需と名目設備投資（季節調整値）

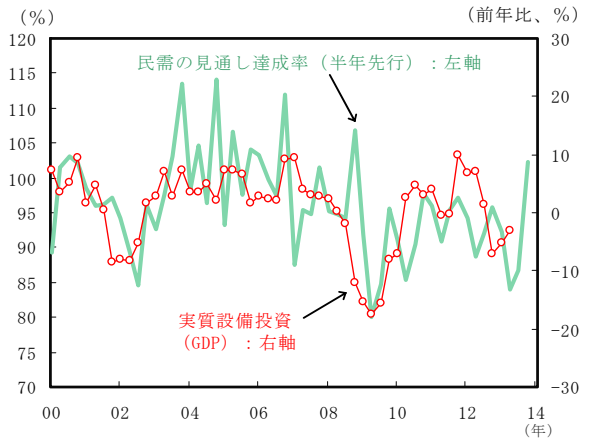
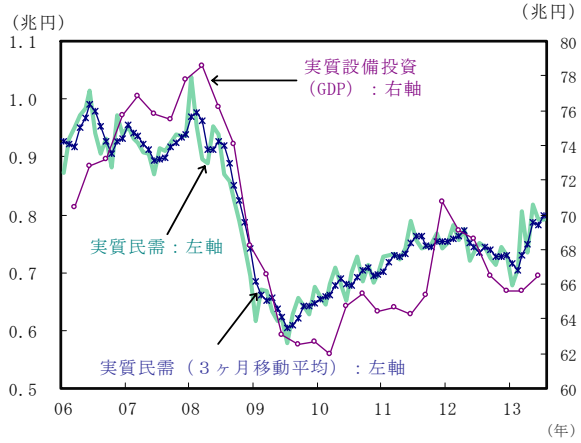


概況

民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比） 船舶を除く合計（季節調整値）

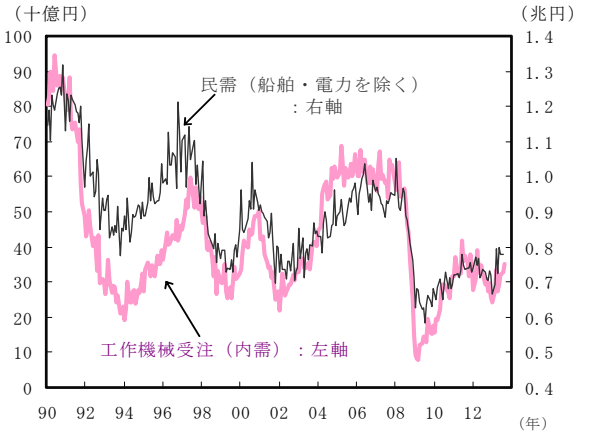
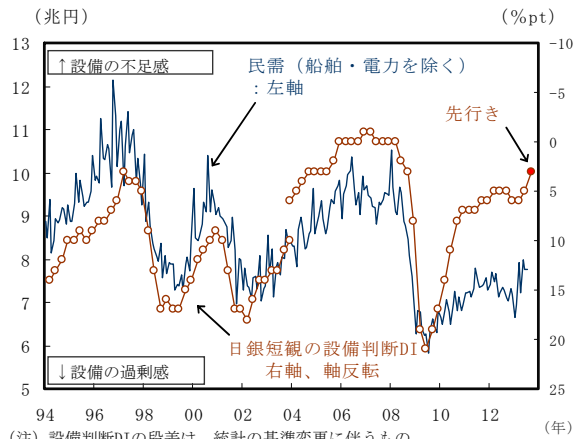


実質機械受注と実質設備投資（季節調整値） 民需（船舶・電力を除く）の達成率と実質設備投資



(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。  
(出所) 内閣府、日本銀行統計より大和総研作成

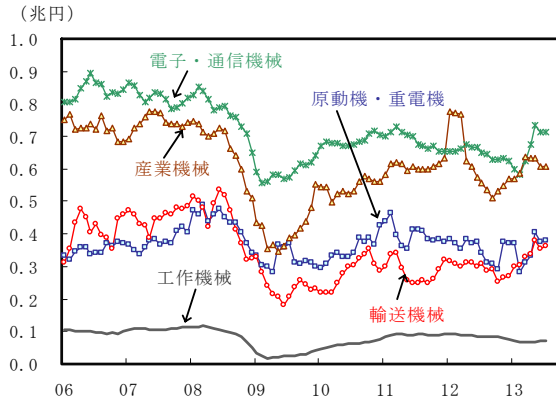
機械受注（季節調整値）と設備判断DI 機械受注と工作機械受注



(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。  
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

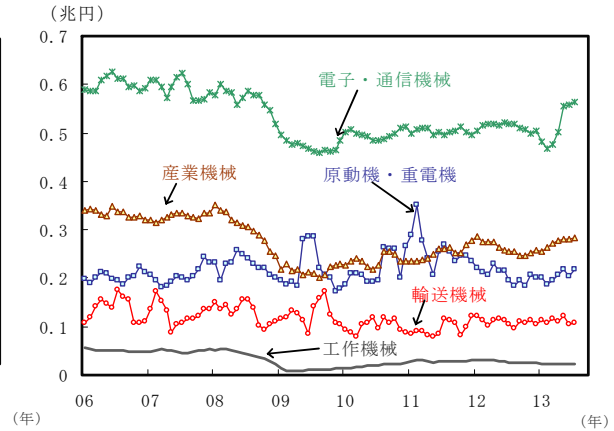
機種別と製造業・非製造業の動向

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

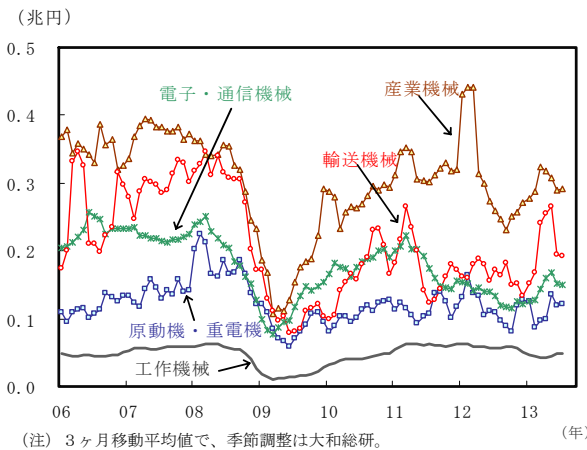


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

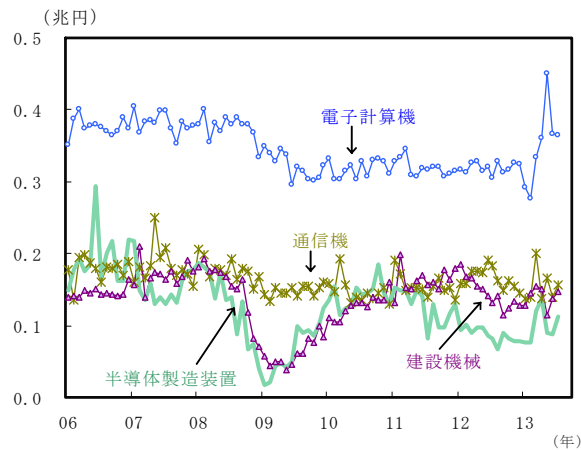


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）



(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）



機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



機械受注と設備投資【非製造業】（季節調整値）



(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成